

植物多様性センターの「タガネソウのピンクの花」

奥多摩ゾーン湿性草地エリアの飛び石の脇で、タガネソウの花が人知れず咲いています。地上部には去年の枯れた葉が残り、その根元から花茎と新しい匍枝を伸ばしています。タガネソウは山地に多いスゲ属の植物ですが、葉が短く広いことで、ほかのスゲからはひと目で区別できます。花はひとつの小穂(しょうすい:花の集まり)の上部に雄花、下部に雌花のつく雄雌性(ゆうしせい)で、色もピンクで珍しいので観察してみてください。



頂小穂の雄花:上部にピンクの葯の雄花があり下に雌花がつく



側小穂の雌花:雌花の柱頭はピンクで3裂する



伸びだした匍枝:葉の基部を赤紫色の鞘が覆う



ケタガネソウ:毛の多い近縁種
(愛知県蓬莱山:6月)